

爬虫類

アオダイショウ

Elaphe climacophora

ナミヘビ科



アオダイショウ

名前の由来

体色が青っぽいところと、大きくなることからその名があると思われる。漢字名：青大将

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
ワシ・タカ

形態的特徴

全長80~192cm。胴中央部の体鱗列は23~25列。背面はオリーブがかった褐色で青みがある。不鮮明な4本の縦縞を持つものもあるが、シマヘビのものより不明瞭で細い。

類似種と見分け方：シマヘビ、マムシ。

シマヘビの胴中央部の体鱗列は19列、光彩はアオダイショウは褐色であるがシマヘビは赤いものが多い。

幼蛇ではハシゴ型横斑があるのでマムシと間違われること

があるが、マムシはずんぐりと太短い。



類似種のシマヘビ

生息環境・分布

主に樹林。人家や倉庫などにも生息する。

冬は地中で冬眠する。

分布：国外分布はなし。

国内分布は、日本全国に分布。

北海道内では、北海道、国後、奥尻に分布。

十勝地方では、低地から山地の主に樹林でみられる。

食性・他生物との関わり

鳥類、ネズミなどの哺乳類、カエルやトカゲなどを食べる。鳥の卵なども食べる。

猛禽類などに捕食される。

繁殖生態・寿命

5~6月に交尾し、7~8月に産卵する。産卵数は4~17。

寿命は不明。

興味深い話

■樹上性で樹洞などを利用することも多いが、人家などを利用する事も多い。

■ネズミなどを食べることから、古くから倉庫や民家の有益動物として大切にされてきた。

■幼蛇は淡褐色にハシゴ型の横斑があるため、よく知らな

い人はマムシと間違える事もある。

■捕まえようとすると首を持ち上げて威嚇したり、掴んだりすると咬みついて総排泄口から悪臭を放ったりする。

■十勝地方のアイヌ語では、ヘビ類一般が「シリカウカムイ」「タンネカムイ」と呼ばれる。

配慮事項

自然状態では樹林などの生息環境だけでなく、餌動物であるネズミや鳥類の生息環境としての樹林などが必要であろう。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出現期												
冬眠期												
繁殖期												

参考文献

「日本動物大百科 両生類・爬虫類・軟骨魚類」日高敏隆監修 平凡社 1996

「決定版日本の両生爬虫類」内山りゅう・前田憲男・沼田研一

関慎太郎 平凡社 2002

「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編集、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004